

- 司会進行/遠藤 正夫
- ロータリーソング/手に手つないで・四つのテスト
- ゲスト/須藤 圭亮氏(石垣市企画部長)
- ビジター/新里 裕道氏(那覇西 RC)
- メイクアップ/上勢頭 保・渡久地 明  
佐久本 達・前木 繁孝(計4名)

## 出席報告

会員総数 38名 出席義務会員 37名  
出席数 27名 欠席数 10名  
出席率 72.97%(10月 通算出席率 67.57%)

## 本日の二コニコ

BOX ￥ 0(累計¥27,000)  
コイン ￥ 0(累計¥33,592) 合計¥60,592

## 会長挨拶:新 賢次



10月中ごろにさしかかっていますが、先週は世界を回ってこられた吉本さんの大変興味深いお話でした。その中で石垣島が本当に素晴らしい文化を持っているという事、これは宝なんだという話がありました。石垣島の自然と文化は皆さんすばらしいと認めて頂いていますが、文化というものに関しては捉えづらいかと思います。私自身も勉強していきたいと思えます。講演会を1つご紹介させていただきます。石垣市の企画部の管轄ですが、「石垣島観光経営の時代・着眼点としてのライフデザインの考え方」というタイトルで、今月27日に市民会館中ホールで講演会があります。講師は谷口正和氏で石垣市の観光アドバイザーをなさっている方です。いろんな文章を拝見させていただくと、とても興味深いものがあります。例えば文化が先、経済は後から付いてくるというようなキ

ーワードがありまして、そういった話を聞けるのではないかと思います。ご都合つく方はお出掛けになって頂きたいと思えます。

今日のゲスト須藤部長にバトンタッチをしたいと思えますが、聞くところによると学生の頃は野球、ピッチャーをやっていたようです。先日八重校が優勝したと、石垣島も沸いておりますが、ぜひ甲子園で皆で応援したいと思えます。それでは須藤部長よろしくお願ひします。

## 幹事報告:宮良 薫

事務局に田畑静男さん(那覇南 RC)の「法務大臣賞」受賞記念祝賀会開催の案内が来ています。日時は平成27年11月13日(金)18:30受付19:00開宴です。場所はホテルロイヤルオリオン、会費は5,000円となっています。出席ご希望の方は事務局までお願ひします。それから石垣市から第51回石垣島まつり親善友好姉妹都市交流会の案内が来ています。岡崎、稚内、犬山市、北上、蘇芳鎮の皆様との交流会になります。日時平成27年11月7日(土)午後6:00~、場所は南のちゅら花ホテルミヤヒラ、チケット代は3,000円となっています。もう1つ蘇芳鎮石垣姉妹都市20周年記念祝賀会の案内が来ています。11月6日(金)、場所はANA インターコンチネンタル石垣リゾート「真栄里の間」、チケットは5,000円となっています。二日連続になりますが、よろしくお願ひ致します。

## 委員会報告:仁開 一夫

10月8日国際奉仕委員会がありまして、那覇でテレビ会議に出席してきました。内容は来年5月28日韓国での世界大会、登録が12月15日までだと安くなりますので、早目に登録をお願ひしたいと思います。今月末に国際旅行社から日程と旅行代金が出てきますので、皆さんにお配りできると思えますので、ご参加よろしくお願ひ致します。

## ゲスト卓話:須藤 圭亮氏

石垣市企画部長

~テーマ「地方創世について」~



皆様こんにちは。7月に内閣府から出向してまいりまして、ちょうど100日くらい経ち、だいぶ肌の色も含めて馴染んできたかなと思えます。今日は貴重なお時間を頂いてありがとうございます。私は地方創世の国からの人材派遣という枠組みで来ております。地方創世の取組、その内容について少しご紹介させていただきます。

そもそも地方創世とは何か、一言で言えば2つです。人口減少の流れを如何に食い止めるか、もう1つは地域経済の成長を如何に維持・伸ばしていくかという、この2点です。これまで幾度となく経済対策というのは打ち出されてきましたが、今回の新しい点は人口との兼ね合いで、如何に経済の成長を考えていくかという事です。国の総合戦略の概要として、東京一極集中の是正、地方への人の流れ、そして地方で特に進んでいる、もしくは今後進むと見込まれている人口減少の流れ、これを如何に食い止めるかが大きな課題になっています。ただ、石垣は足元では人口が微増傾向にあるという事で、お住いの方々には人口減少を食い止めると言っても実感として考えられないという方もいらっしゃる。石垣の現状の推移で行きますと、10年後には人口が減少していくという見込みが国立社会保障・人口問題研究所が推計をだしています。石垣は幸い現状においては微増傾向にあるわけですが、本土の地方においては既に人口減少が進んでいる所もあって、そういう意味では現在の増加基調にある間に具体的な対策を打てるという、非常にいいタイミングであろうかと思えます。

国も沖縄県も石垣市もそうですが、長期ビジョン、人口のビジョンを示した上で具体的に実現するための施策をまとめるという事になっています。今回は石垣市の人口ビジョン:2060年までの人口の推計、今後の見通しを先月石垣市総合戦略策定委員会で大きな方向性がまとめられていますので、

紹介したいと思えます。まず石垣市の現状として、1980年以降人口が増えていて、現在49,000を超えています。ただ一方で1世帯当たりの人員が減少しております。1950年5.3に対して2010年が2.4と半分以下に1世帯当たりの人数が減っていて、核家族化が進んでいるという事がデータでも明らかになっています。字別の人口増加数は地域によって人口増減が顕著に表れていて、北部や西部は1995年と比較すると、減少傾向にあります。意外なのは大川、登野城もここ15年人口が減少している地域になっています。

石垣の人口構成の推移ですが、生産年齢人口(15~64歳)、それから老年人口(65歳以上)については増加基調にあります。やはり年少人口(15歳未満)は減少しています。石垣の特徴として10代の後半20代の前半、20代の周辺が人口が減る、これは大学等の高等教育機関へ進む場合は島を出るといった人たちがいますので、この部分の人口が減っています。一方で自然動態(出生・死亡)の現状はどうかというと、2014年、自然増減+165で、高齢化は進んでいますが合計特殊出生率は2.06という非常に高い水準で推移しています。この高い出生率が人口の増加基調を支えている現状にあります。日本全国では1.42と言われていますが、これを2060年までに1.8に上げて行こうという事が総合戦略では示されています。全国的に1.8に上げて行けば、現在の1億2,000万人の人口、これは既に減少基調がありますが、これが2060年には1億人で維持されるという推計がだされています。石垣の場合は現在2.06ですが、さらに市民の希望出生率を如何に実現していくかが大きな課題になっております。

年齢階級別有配偶率ですが、1990年と2010年を比べますと高齢世代の方々については、有配偶率はこの20年は相当高く、10%くらい上がっています。長寿化という事が原因として考えられます。一方で若い世代25歳から29歳までとか30歳から34歳は有配偶率は相当下がっています。一番多い所で20数パーセント下がっているわけです。実際晩婚化、未婚化という事が言われていま

すが、石垣においても顕著に表れています。

社会動態、移住であるとか転出であるとか、そういう人口の増減ですが、2014年ー101になっております。2004年から2009年まで移住ブームの時期がありました。その時期は年間300人、400人の社会増があったわけですが、それ以降リーマンショックを経て、ここ数年間は転出が転入を上回る実態となっています。

Uターンについては、石垣に本籍がある方が戻ってきている人数という事で算出していますが、年間500～1,000人程度の数でUターン者がいるわけです。2013～2014年にかけて少し上がっておりますが、大きな傾向としてはここ数年においては、やはり移住ブームの時と比べますとだいぶ転入が少ないという状況になっています。

15歳から35歳の人口移動ですが、昭和55年生まれを見ますと、平成7年の時点で15歳、26年に34歳という事で、その間に島を出て、戻ってきた人の数をデータとして出しています。それによりますと811名がこの間に外に出ています。そして戻って来た人の数が521名です。Uターン率62.24%になり、6割強の方が戻って来ています。男性も女性もUターン率傾向としては同じですが、やはり女性の方は結婚等で外に出られる方が少し多いということでもあります。

自然増と社会増減の影響ですが、1984年から90年にかけて減少になって、そこから増加していますが、2014年はかろうじて増加になっています。その上で今後どうなっていくのか、石垣市の将来人口推計を見ますと、現状の推移が2015年に最大、これは国勢調査ベースですので、実際の住民票ベースの数字とはずれてきますが、2025年で48,898人、これをピークに減少傾向に入っていくという事になります。2060年43,764人という所まで落ち込んで行くという事になります。もう1つポイントは人口比ですが、2015年で生産年齢人口（15～64歳）が63%、年少人口（0～14歳）と老年人口（65歳以上）がだいたい同じくらいですが、2060年になりますと年少人口の約2倍以上老年人口が増えてきます。高齢化が進むこと自体

は長寿化が進むという事で、悪いことではないと思いますが、子供の数が減っていくという事が大きな課題ということでもあります。こういった現状の推移を踏まえて出された推計をいかに改善していくかという事が今後の課題という事です。

具体的には、出生率の改善、現在は2.06となっていますが、これを2.47に改善した場合、2.47という数字は子育て世代の方々にアンケートを取った結果、希望する子供の数を算出しますと2.47という数字が出てきます。この2.47が実現した時に、2040年に50,227人とピークを迎えますが、やはり出生率を改善しただけで高齢化が進んで、2040年以降は減少傾向をたどって行く事になります。社会増減についても現状の推移ではマイナスになりますので、2040年以降は減少傾向になっていくと、一方でUターンは10%増加すると、こういった事も実現するとしても2040年以降はやはり減少傾向になるという事です。2020年以降の社会増減、現在ー100となっている社会減を±0にし、その上でさらに2.47という出生率を実現する事ができれば、2060年まで増加基調が維持できるという結果になっています。

従って、先月開いた策定委員会で確認された方向性として、大きく2つになります。市民の希望出生率2.47という数字の実現に向けて取組むという事。それから人口移動、社会増減、転出と転入が均衡する以上の状態を目指すという事。この2つが確認されました。具体的にそれを達成するための施策をどうするかという事を現在検討しているところでもあります。先週の金曜日に広く具体的な施策を公募しようという事で、来週21日まで事業提案の公募をしております。安定した雇用を増やす事業、結婚・妊娠・子育ての希望を実現するような事業、Uターン・Iターンを促進していくような事業、様々な事業例についてもホームページに掲載しておりますので、ご覧いただいて出来ればたくさんの事業提案を頂ければと思っております。具体的な予算については来年度国でも予算編成しています地方創世の新しい交付金であるとか一括交付金、そしてこの夏から力を入れていま

すふるさと納税、これをワンストップ化して様々な方のご協力を頂いて、特産品を充実させたという事で、今後よりたくさんの寄付が集まる事を期待しております。こういった財源も活用して具体的な事業を進めていきたいと思っております。

アンケートをご紹介させていただきます。子育て世代の女性を対象に行ったアンケートです。

「現在の子供の数」配偶者のいる方で平均1.6で、最終的な子供の予定数は平均1.9という事になっています。ただ妊娠・出産に関する不安や悩みという事で、「保育所などの預け先」石垣の場合は4月時点で200人を超える待機児童ということもありますので、そういった事が一番ネックになっているという事。それから「家計収入が不安定である」とか「医療体制が不足している」とか「職場の育休、産休、仕事復帰」といった事で悩みが多いといった回答をされている方が多いです。こういった不安や悩みが解消された場合の理想的な子供の数が配偶者がいる方については2.9人に増加、約1人増加するという事です。石垣市は「子育てしやすいまち」だと思いませんか？という問いに、「そう思う」「おおむねそう思う」合わせて約50%未満ですが、「どちらともいえない」という割合が40%近くありまして、待機児童がこれだけ多い自治体で、「どちらともいえない」を含めて考えると80%を超えるという、私、ここに来る前は子ども・子育て本部という国の機関にいて、いろんな自治体を回りましたが、待機児童がこれだけ多い自治体でも子育てしやすいまちか？という回答が「どちらともいえない」を含めれば83.6%という高い割合というのは非常に珍しいケースであります。こういった行政の施策のみならずコミュニティでの子育てという事が出来ている石垣の特徴を表しているんじゃないかと思います。

独身の方を取ったアンケートですが、現在独身でいる理由？「適当な相手にめぐり合わない」とか結婚を考えた時に気になること？「パートナーと生涯うまくやっていけるか」とか「家族とうまくやっていけるか」といった人間関係もありますけど、やはり大きいのは「経済的にやっていける

か」といった事が62%を占めています。交際相手がいるか？「いない」と答えた方が6割いましたが、そのうち交際相手がほしいと回答した方が73%いるわけですが、異性と出会う機会はあるか？「ほとんどない」と「少ない」を合わせて8割が少ないと回答していました。私はすごく意外で石垣の場合祭りも多いし、地域活動も多いのでこういう出会いが少ないという回答は意外でびっくりしたんですが、こういった認識を持っているという事です。「理想的な子供の数」という事で、平均2.6人持ちたいという希望があるという事です。具体的にネックになっているのは何か。満足度の低い施策それから重要度の高い・・・どちらでも上位にくるのが安心して子どもを産むことができる医療体制であるとか、国に対する支援であるとか、就労支援といったこと、こういった具体的な施策のニーズというものが浮かび上がってきているという事でもあります。そういった結果を踏まえて、具体的な事業を創り上げていくという事があります。石垣の場合、足元で人口が増えていますので、なかなか各自治体で現在進められているような婚活事業とかそういう少子化対策という事があまり直接的には行われてきていないわけですが、こういった推計などを見ますと今後そういった推計を前倒しして具体的な施策を準備していくということでもあります。具体的な施策については現在公募している事業提案、それをさらにブラッシュアップしていくようなプロセスを経て、今年度中に総合戦略を策定していくというスケジュールを進めて行きたいと思っております。また引き続き色々な観点からのご指導ご助言を頂ければ幸いです。ありがとうございました。

## 「結の会」清掃活動支援プロジェクト

実行日⇒10月28日(水)

地区補助金20,000円

クラブから50,000円 合計250,000円

草刈り機、ユニホーム、その他清掃器具を「結の会」の清掃ボランティアをしているメンバーに寄贈。詳しくは後日ご案内致します。

☆。☆。☆例会風景☆。☆。☆



那覇西RCの新垣さんがご来会くださいました。



石垣市企画部長の須藤氏より石垣市の人口動態についてお話頂きました。



～沖縄分区 IMのご案内～  
 大会テーマ「沖縄(ウチナー)アイデンティティ」  
 サブテーマ「話(かた)やびらチャンプルー文化」

基調講演 講師:崎原 真弓氏(スーパーバスガイド)  
 演題「琉球の先人たちから学ぶ“肝心”(ちむぐる)」

日時:2015年12月9日(水)14:00～20:00  
 受付:13:30 登録開始 点鐘:14:00  
 場所:ANA クラウンプラザホテル沖縄ハーバービュー

♪曲目決定♪  
 「勝手にしやがれ」

※懇親会では当クラブ代表として小林 昌道氏がカラオケ大会に出場します。  
 みんなで盛り上げましょう!(商品も多数あるそうです...)

石垣ロータリークラブ週報

<今月のロータリーレート \$1=120円>

Weekly Report No. 2570

国際ロータリー・テーマ

2015-16年度  
会長テーマ

「奉仕・天資と文化」



世界へのプレゼントになろう

K. R. ラビ・ラビンドラン

会長:新 賢次 副会長:前木 繁孝  
 直前会長:上原 秀政 幹事:宮良 薫  
 副幹事:前原 博一 SAA・出席:羽地 宏幸  
 情報・会報:名渡山 秋彦

創立記念日 1962年3月12日 (55周年)

2015年(平成27年)10月21日(水) 第15回 例会(通算2676回)

マリンスポーツとレンタサイクル <http://leisure.okkc.com> 098-943-1161



<今週の職場: OKK 有限会社 沖縄国際海運(上勢頭 保会員)>

設立平成6年1月21日、本社・支社 社員8名。

コンテナ専用船の定期航路(上海～那覇～台湾間)を運航しており、外国船舶代理店業務・輸出入関連手続等、国際業務を中心に、また国内の通関業務・配送手配のサービスを拡充しております。今年度より、外国観光客を対象としたレジャー部門を立ち上げました。近年増加傾向にある海外のお客様に沖縄のマリンスポーツやサイクリングの魅力をお伝えし、市場開発と長期営業を目指し、社員一同取り組んでおります。

例会日 水曜日 12:30～13:30  
 例会場 ホテル日航八重山(0980)83-3311  
 事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4

TEL/FAX(0980)83-2917  
 URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>  
 E-mail [ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp](mailto:ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp)